加へられ、會社側の懐柔策は思ふが儘に施さるゝを目撃し幹部等の憤慨は其の極度に達し製罐部の大内氏の如きは激憤の餘り精神に異常を來せる程にして爭議團側の決死的態度は漸く色彩濃厚なるに至れり。斯くて二十七日の最高幹部會に於ては席上一種悽慘の氣横溢し、結局軟化分子を包含して結束運動にのみ沒頭するよりも、寧ろ硬派のみを糾合して最後の一戰に及ぶべしと頗る強硬なる主張を爲すものありしが、議は遂に「無抵抗主義に終始した吾々の生に對する運動は官憲の威壓に依つて既に萬策盡きたり。最早吾々の正義の主張は神明の冥助を願ふ外に採るべき策はない」と決し、滿場一致を以て翌日より三日間神社祈願を行ふべく決定、二十八日は長田神社に參集し左の祈願文を奉り更に引返して湊川神社に參拜、二十九日には和田宮神社、生田神社、三十日には再び湊川神社及び小野八幡に祈願を籠むる事となりて、此旨各爭議事務所に通達すると共に、市内隨所に左の如き掲示を行ひたり。

急告

私共は最早取るべき策がない。此上は天地神明に祈願する外はない。二十八日は午前七時先づ長田に集合し萬難を排して更に楠社へ向ひます。

大正十年七月二十七日

川崎爭議團本部

祈願文

天地神明に誓つて神戸三萬の勞働者は申す

我等は金權に虐げられ官憲の壓迫に逐ひ、自由の道に通ぜず日に嘆き夜に憂ひ肉落ち骨枯れ此處に唯天地の大靈に祈願して宇宙大衆の批判を受けん事を待つ非道なる金を貪る彼等是なるか、我等は壓制、横暴迫害に堪へ飽まで產業の自由と人格の解放の爲めに天地大靈の庇護を乞ひ願ふ

曩に知事の要請に依り派遣せられ神戸に駐屯せる步兵第三十九聯隊の特派部隊は公安維持の爲め萬一に備ふる處ありしが、職工等の動靜平穩なりしため兵を留むるの必要なきに至りし結果二十五日約半數を殘留せしめ、久保中佐以下約半數の軍隊は姫路に引揚げたり。爭議團に於ては此殘留部隊に對して神戸勞働爭議團の名に於て二十七日左の如き皮肉なる慰問狀を送達せり。

肅啓時下炎暑の候貴隊益々御清榮と存じ奉り候扨て此の度は神戸五萬の勞働階級の爭議の爲め遠路姫路より御出張被下神戸市の治安の爲め御靈力下され候ひし段感謝奉候先は暑中御見舞旁々御慰問申上候　敬白

七月二十七日

神戸勞働爭議團本部

神戸派遣隊御中

七月二十八日川崎爭議團一萬數千の職工は最後の戰捷を神に祈るべく、豫定の如く長田神社及楠公社詣を行ひたり。此朝未明より罷業職工等は堤防に吹く朝風を浴びつゝ三々伍々各方面より湊川署員